



古賀会長来る！ 若きリーダーたちが「労組リーダーセミナー」で 「何をすべきか」を真剣に考える

写真上/古賀会長

グループ討議の様子

連合鳥取は、8月22日(土)、伯耆しあわせの郷(倉吉市)に民主党鳥取県総支部連合会の湯原俊二副代表と、連合本部の古賀伸明会長を講師として迎え、「労組リーダーセミナー」を開催しました。次代を担う若きリーダー(単組書記次長・執行委員など)52人(うち女性5人)(登録平均年齢34歳)が受講し、私たちを取り巻く政治・労働環境の現状と、今後の課題 対応などについて討議しました。

【講演】 民主党県連・湯原副代表 『今の政治情勢と今後の対応』

「政治は国民の想いが集約されるべきものである。昭和時代の自民党の施策では弱い立場の人に配慮していたが、バブル崩壊後は競争原理に伴って強い人に光をあてた政治に変わった。アベノミクス後、2年半で60%が「生活が苦しくなった」と感じており、子どもの貧困率が16.5%にもなっている。」と現状説明されました。

【グループ討議①】 『労働組合が政治活動を行うのはなぜ?』

連合が政治活動に取り組む理由を再確認した上で、10グループに分かれ、現状と問題点を洗い出して、「なぜ政治活動が必要か」について話し合い、発表しました。

【基調講演】 連合・古賀会長 『労働運動の現状と課題』

「政治活動してもその効果が見えない」「大勢に影響がない」という消極的姿勢が投票率減少につながっているが、次の世代につなぐためのより良い制度を作るのは政治であり、自分達の主張・考えを伝えてもらうためにも活動しなければならぬ。

【グループ討議②】 『我々若きリーダーは何をすべきか』

「組合員の組合離れ」ではなく「組合役員の組合員離れ」という古賀会長の言葉を受け、グループごとに「自分たちにできること」を具体的に考え、発表しました。

【基調講演】 連合・古賀会長 『労働運動の現状と課題』

「働くことを軸とする安心社会」「働くための政策理念について具体的な、①組合員だけなく「社会」から共感が得られる運動の構築、②運動のウイングの拡大・アライアンス、③「1000万連合」の実現(仲間を増やそう)、④政治への対応、が必要だと説明されました。

【グループ討議②】 『我々若きリーダーは何をすべきか』

また、組合活動の中で、自身先輩から言われた、①専従者は職場に出て話をしろ、②「働くことを軸とする安心社会」「働くための政策理念について具体的な、①組合員だけなく「社会」から共感が得られる運動の構築、②運動のウイングの拡大・アライアンス、③「1000万連合」の実現(仲間を増やそう)、④政治への対応、が必要だと説明されました。



五十嵐会長(前列左から5番目) 古賀会長(前列左から6番目)

【参加者アンケートより抜粋】

- ・古賀会長の話の中で、「組合員の組合離れ」ではなく、「組合役員の組合員離れ」という言葉が印象に残った。
動員など「人を集めること」が目的になってしまっていることに気づかされた。
- ・討議「労働組合が政治活動を行うのはなぜ？」は難しかったが、討議「我々若きリーダーは何をすべきか」は、今後の組合活動に対し、自分自身どう取り組むのか改めて考えることができ、良かった。
- ・連合鳥取のHPをみたことがない 【74%】
- ・機関紙「れんごう鳥取」をみたことがない 【24%】

■ 平和特集 ■ 6月～9月は平和行動月間

連合は平和運動として、核兵器廃絶による世界の恒久平和の実現と、被爆者支援の強化をはじめ、在日米軍基地の整理・縮小、日米地位協定の抜本的見直しに向けた運動、北方領土の早期返還と日ロ平和条約の締結をめざす運動などに取り組んでいます。

特に今年は戦後70年の節目の年であり、「これからの平和運動と次世代への継承」をテーマに平和行動を実施しています。

連合鳥取においても、毎年、3地域協議会を中心に組合員とご家族、組合OBなどのみなさんに呼びかけ「ピースウォーク」を行っています。

本年も、平和の大切さを改めて考える機会とするため、それぞれの地協が工夫した企画により「ピースウォーク」を開催し、アピール採択と平和行進を行い、世界の恒久平和の実現、核兵器廃絶などを地域に訴えました。

**連合鳥取ピースウォーク
— 子どもたちに核兵器も戦争もない未来を渡すために —**

中央(東部)ー8月1日(土)／さざんか会館:約180人

<講演>被爆体験伝承者(山岡美知子さん)による伝承講話

被爆体験伝承者とは、被爆後70年が経過し、被爆者が高齢化し被爆体験を直接語り継ぐことができる方が減少していることを受けて、広島市が平和への思いを次世代に確実に伝えるため3年かけて養成してきたもので、山岡さんはその第1期生になります。

講演の中で、アメリカは緻密な計画のもとに原爆を投下し、初めて使用する兵器の威力を確認するために事前・事後に投下予定地を詳細に調査していたこと、そして実際に投下後の原爆が人体等に及ぼす影響についてデータを収集していたことを説明されました。

また、原爆により、山岡さんのお母さんが爆心地から3.5kmで被爆したこと、母の妹が13歳で建物疎開中に亡くなったこと、そしてスライドで、被爆者が実際に描いた絵をもとに当時の状況の悲惨さを説明されました。

最後に、「原爆慰霊碑のことは『過ちは繰り返さぬから』が、原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを繰り返さないという思いであることを理解して、われわれの次の世代に原爆の悲惨さを伝えていかなければなりません。」と話されました。

<平和行進・その他>

東部地協としては初めて、参加者のみなさんに折り鶴を会場で作成していただきました。折り鶴は「連合2015平和ヒロシマ集会(8/5)」にて献納しました。

また、参加者全員で平和行進を行い、世界の恒久平和の実現、核兵器廃絶などを地域に訴えました。



講師/山岡さん



中部地域－7月31日(金)／倉吉体育文化会館:約100人

DVD「沖縄戦の証言」上映

戦争の悲惨さやむごたらしさを映像で再確認し、不戦の誓いを立てました。



<平和行進>

JR倉吉駅前に向かって平和行進を行い、「平和への願い」を地域にアピールしました。



西部地域－8月2日(日)／ふれあいの里:約300人

基調講演／安田壽朗弁護士

「仮に安全保障関連法案が強行採決された場合、社会の変化はどうもたらされるのか」について講演を受けました。



現場からの訴え／加藤事務局次長(日教組)

教育制度が大きく変質されていることに鑑み、①教師の政治的中立について、②主権者教育について、③2018年度から導入される道徳の教科化について、危惧する側面を訴えました。



<デモ行進>

灼熱の中、米子市役所まで「安保法案反対」を求めて訴えデモ行進しました。

連合平和行動<沖縄・広島・長崎>に参加

沖縄

6月23日(火)～24日(水)
参加者/9人
・平和集会
・ピースフィールドワーク



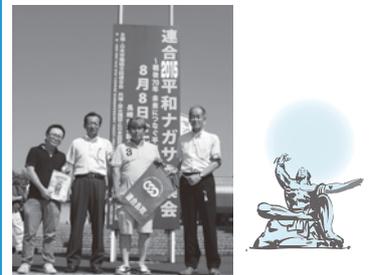
広島

8月5日(水)～6日(木)
参加者/18人
・ピースウォーク
・平和集会・原爆死没者慰霊式



長崎

8月8日(土)～9日(日)
参加者/4人
・平和集会
・ピースウォーク



「2016年度連合鳥取政策・制度要求」を鳥取県知事に提出

希望と安心の社会づくり

8月7日(金)、連合鳥取より五十嵐美知義会長と田中 穂事務局長が鳥取県庁に出向き、「2016年度政策・制度要求書(31項目)」を、平井伸治鳥取県知事に手渡しました。

それぞれの項目についての部局交渉は10月に行い、協議を進めることとなっています。



平井知事(左)に手交する五十嵐会長(右)

Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

青年委員会/列島クリーンキャンペーン

参加者募集中

- ◇開催日 2015年9月26日(土) 9時30分開会
~27日(日) 朝食・朝の集い後解散(9時頃予定)
- ◇集合時間 9月26日 9時15分受付開始
- ◇集合場所 ホテル大山しるがね
西伯郡大山町大山136-2
- ◇内容 大山登山(一木一石運動)・夕食懇親会



連合鳥取/防災学習会

参加者募集中

- ◇実施日 2015年10月17日(土)
- ◇内容 「人と防災未来センター」(神戸市)の見学
- ◇交通手段 米子駅発で貸切バスを運行します。
・往路 米子駅発6:30 道の駅大栄7:30 鳥取駅発(南側)8:30
・復路 神戸発16:00 鳥取駅着(南側)19:00頃 道の駅大栄20:00頃 米子駅21:00頃
- ◇募集人員 40名(ご家族での参加も歓迎) ※定員になり次第、締め切りさせていただきます。
- ◇参加費 ①小学生以上中学生以下 1,000円/1人(小学生未満無料)
②高校生以上 2,000円/1人
- ◇申込方法 現在、産別・直加盟組織を通じてご案内しています。積極的なご参加をお願いします。
- ◇申込み切 9月25日(金)/連合鳥取事務局へご報告ください。
- ◇その他 昼食は連合鳥取で用意いたします。



“ザ・議員”

上田 孝春 鳥取市議会議員

「地域間格差について」

政府は昨年、「地方創生総合戦略」と称して疲弊した地方都市の再生を図るといい、国民・地方自治体は双手をあげて歓迎していますが、私は今度の地方創生は、2020年東京オリンピックを控えて飽和状態の東京一極集中を回避するための政策と考えています。

国は、地方創生は自治体間の知恵比べで、担当大臣は地方自治体同士がしのぎを削る「戦国時代の到来」とも言い、当然、「勝ち組」「負け組」の2極化が進み、地域間格差が生じてもやむを得ないという考え方ですが、今の社会の中には様々な格差があり、この是正が問われている時、国が地方創生の名のもとに自治体間の競争をおおれば自治体間の格差が拡大し、自主財源の乏しい、財政の厳しい自治体は消滅してしまう危険性が非常に高いと考えます。

私は、国民はどの地域に住んでいても必要とするサービスが平等に受けられるようにするのが政治で、地域間格差はあってはならないと強く指摘をしてまいりました。



2015連合鳥取ピースウォークに参加

長坂 則翁 鳥取市議会議員

議員として「市民生活の向上」「福祉の増進」「防災」「中山間地域の活性化」「交通政策」等、さまざまな課題に取り組んでいます。

とりわけ、交通空白地域(路線バス等が運行されていない地域)の弱者といわれるみなさまの利便性の向上、地域活性化に向け、過疎地優勝運送の取り組みを積極的に転化しています。

具体的には、行政の支援を受け、NPO法人OMU(注)を10年前に設立し、法人の役員として今日に至っています。現在、年間利用者が1,000人を超えるまでになっています。(私もボランティア運転手をしています。)

私の信条は「谷間のない行政運営」を求めていくことです。連合のみなさまにも市政に対する貴重なご意見をお寄せください。



NPO法人OMU理事長・副理事長とともに市長へ総会終了報告を兼ねた表敬訪問(2015.6.11)

写真左/長坂議員 中央/深澤市長

(注)NPO法人OMU(オーエムユー) NPO法人OMUは、鳥取市の湖山池西側の中山間地域にある大郷・御熊・内海中の3地区で路線バスが運行されていないことから、自宅から最寄りの交通機関までの移動手段を提供する事業を2009年に開始。住民生活の向上と福祉の増進に寄与することを目的として、高齢者の通院・買い物等の生活交通を確保している。

<OMUの由来> 運行区域である O=大郷Osato地区、M=御熊Mikuma、U=内海中 Utsuminaka を意味している。“OMU”の命名者は 長坂 です。

8月から9月は、暑いだけでなく豪雨・台風といった自然災害も多く発生する。昨年の8月20日に発生した広島における豪雨による土砂災害では74名と、うい尊い命が失われた。自然災害は恐ろしく、用心をしていても自然の力は、時として想像を超える。備えも大切であるが、情報や異変に機敏に対応する心構えと行動力が大切だと痛感する出来事であった。▼最近では気象衛星「ひまわり8号」が7月から運用開始され、映像もカラーとなり、撮影間隔も30分から10分になった。これにより台風の正確な進路予想や、局地的な集中豪雨の防災対策につながるかと予想されるため、今後の活躍に期待したい▼これからも自分の住む場所での自然災害が発生しないとも限らないし、ましてや災害の被害にあっても人が助けられるとも限らない。やはり自分で身を守る意識が必要であり、そのためには、情報収集や遭遇した場合の対処方法を自分のおよび家族を含め確認する必要がある。(直)



てんごんくんとせ